

普及活動情勢報告（平成30年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

環境に配慮した養液栽培の産地へ ～養液ミョウガ給液循環システム装置現地説明会～



内部はどうなっている？

J A土佐くろしおミョウガ部会では、平成31年度までに部会員全戸の養液栽培の循環システム等の計画的な設置に取り組んでいます。1月25日に膜方式による循環システムについて、(株)太陽や県関係機関から、部会役員及び地区代表者、J A指導員らに現地説明会が開催されました。実証中の装置を確認しながら、膜処理のメリットや価格、メンテナンス等についての説明がされました。

農家からは、「メンテナンス方法はどうなる」「廃液タンクを大きくしたほうがいい」等、メーカーへの要望など意見交換がされました。

農業改良普及課は、環境にも配慮したミョウガ養液栽培産地の発展に向け継続して支援していきます。

夏野菜の出荷に向けて ～中土佐町直販所の農産物栽培講習会～



農産物栽培講習会

2月1日、5日の2日間、中土佐町直販所の出荷者を対象に農産物栽培講習会を開催し、24名が参加しました。

農業改良普及課からは、土づくりや主要な夏野菜の栽培について説明しました。また、参加者が持参した土壌を中土佐町農林課とともに測定し、元肥の適正な施用量の指導を行いました。

参加者からは、サツマイモの病害虫に関する質問や「土の状態を知ることができ、とても参考になった。」といった感想が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、直販所への野菜の周年出荷に向けて支援していきます。

梶原の新たな特産品に！ ～酒粕漬け新商品お披露目会～



完成した酒粕漬け商品

2月5日、梶原町の集落営農組織龍王営農組合が、新商品である「龍馬脱藩の郷 ゆすはら酒粕漬け」のお披露目会を開催し、農家2人、関係機関8人が参加しました。

龍王営農組合は平成25年度から酒粕漬け加工に取り組んでおり、今年商品化に向けて6次産業化支援チームの支援を受けパッケージ作成や販路検討に取り組みました。

酒粕漬けやおにぎりなどを試食した人からは「美味しい」との声が聞かれ、組合長は「梶原の特産品にしたい」と意気込んでいます。農業改良普及課は、今後も農家の6次産業化を支援します。

身近な組織の事例を学ぶ～ 集落営農塾ステップアップ編現地研修会～



神母野営農組合での研修

2月16日、中土佐町大野見にて集落営農塾ステップアップ編現地研修会を開催し、管内の6組織14人が参加しました。

研修会では身近な組織の活動について研修し組織同士の交流を深めるため、管内の神母野営農組合と（農）大野見野の風の2組織を視察しました。

各組織から活動状況について説明した後は、参加者から「経営状況はどうか」「作業体制はどうなっている」等多くの質問が寄せられました。また、施設の機器の配置等について各組織で工夫している点などを学ぶことができました。

農業改良普及課は、今後も集落営農組織の活動強化や組織間交流を支援します。

ライフプランとキャッシュフローを考えよう！ ～はちきん農業大学～



須崎地域講座

2月1日、第5回はちきん農業大学須崎地域講座を開催し、管内の農業者等3人が参加しました。

講座では、ライフプランとキャッシュフローの関係をケーススタディから学んだり、物価上昇を想定して個人金融資産を増やす必要性について、講師のファイナンシャルプランナーから説明を受けました。

参加者からは「将来に備えて、資産やお金について考えていきたい。」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も女性農業者等の育成に向けて取り組みを継続します。

販売額アップ！目にとまるPOPとは ～直販POP研修会の開催～



POP研修の様子

1月24日、直販ネットワーク主催でPOP研修を出荷者や直販事務局等18人の参加を得、開催しました。

研修会では臼井先生を講師に、目を引くPOPの作り方を研修しました。座学の後、出荷品のPOPを実際に作りました。「今日作ったものを早速商品に張りたい」「色使いはどう？」と、隣の人と相談しながら和気あいあいと実習していました。ただ、出荷するだけでなく「どのように売っていくか」、出荷者等の皆さんの考える場になりました。

農業改良普及課は、今後も出荷者の皆さんの販売額アップに向け研修等の取り組みを支援していきます。